

## 曲目紹介

◎F. ショパン (Fryderyk Franciszek Chopin 1810-1849) はポーランドのピアニスト、作曲家。作品のほとんどはピアノ曲で、今日演奏される前奏曲集、練習曲集の他に2曲のピアノ協奏曲など短い生涯の間に二百数十曲を残しています。

※1810年前後には有名な作曲家が相次いで生まれています。

1809年 メンデルスゾーン (-1847)

1810年 ショパン (-1849)、シューマン (-1856)

1811年 リスト (-1886)

1813年 ワーグナー (-1883)、ヴェルディ (-1901)

メンデルスゾーン、ショパン、シューマンはほぼ同年の生まれで、若くして亡くなっているのも共通です。リスト以下の3人が長寿を全うしたのは対照的です。

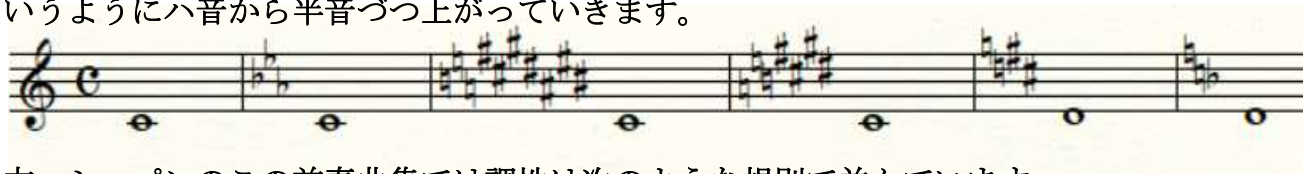
彼らたちについては中川右介著「ロマン派の音楽家たち」(ちくま新書)に詳しいです。

●24の前奏曲 Op. 28 (以下は昨年3月の三浦謙司さんの例会時の解説と同じ内容です)

1839年の作品で、調性が異なり長短も性格も異なる24の曲から成ります。

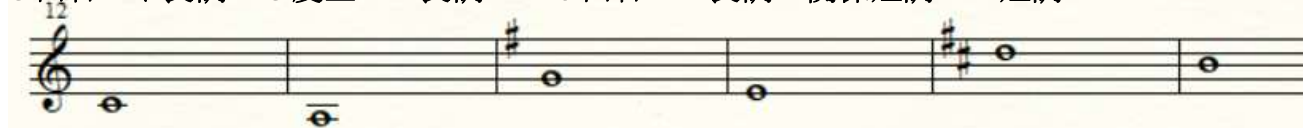
このような曲集の前例としてはJ.S バッハ(1685-1750)の平均律曲集第1集(1722)が有名です。そこでの調性の順番は

ハ長調→ハ短調→嬰ハ長調→嬰ハ短調→ニ長調→ニ短調→  
というようにハ音から半音ずつ上がっていきます。



一方、ショパンのこの前奏曲集では調性は次のような規則で並んでいます。

1曲目 ハ長調 →2曲目 ハ長調の関係短調(調号は同じで長調から短調へ)のイ短調  
→3曲目 ハ長調の5度上のト長調 →4曲目 ト長調の関係短調のホ短調  
→5曲目 ト長調の5度上のニ長調 →6曲目 ニ長調の関係短調のロ短調



この並び方による先行例としてはフンメル(1778-1837、ドイツの作曲家、ピアニストでベートーヴェンのライバル)の「24の前奏曲」(1814)があります。ショパンはフンメルの影響を受けているとの説もあります。

短い曲は30秒ほど、長い曲で2分30秒、例外的に15曲目の雨だれが5分です。

第1番	ハ長調	アジタート、	8分の2拍子	30秒
第2番	イ短調	レント、	2分の2拍子	2分
第3番	ト長調	ヴィヴァーチェ、	2分の2拍子	1分
第4番	ホ短調	ラルゴ、	2分の2拍子	2分
第5番	ニ長調	アレグロ・モルト、	8分の3拍子	40秒

第6番 ロ短調 レント・アッサイ、4分の3拍子 1分50秒  
 第7番 イ長調 アンダンティーノ、4分の3拍子 50秒

太田胃散のCMで使われ続けています。 イ長=胃腸だから？



第8番 嬰へ短調 モルト・アジタート、4分の4拍子 1分40秒  
 第9番 ホ長調 ラルゴ、 4分の4拍子 1分10秒  
 第10番 嬰ハ短調 アレグロ・モルト、 4分の3拍子 30秒  
 第11番 ロ長調 ヴィヴァーチェ、 8分の6拍子 30秒  
 第12番 嬰ト短調 プレスト、 4分の3拍子 1分10秒  
 第13番 嬰へ長調 レント、 4分の6拍子 2分30秒  
 第14番 変ホ短調 アレグロ、 2分の2拍子 30秒  
 第15番 変ニ長調 ソステヌート、 4分の4拍子 5分 「雨だれ」

「雨だれ」というタイトルで有名ですが、ショパンが付けたものではありません。冒頭を簡略化した楽譜です。左手のAs音の連続が雨だれという愛称の由来です。



第16番 変ロ短調 プレスト・コン・フォーコ、2分の2拍子 1分10秒  
 超絶技巧が要求されます。  
 第17番 変イ長調 アレグレット、 8分の6拍子 2分30秒  
 第18番 へ短調 モルト・アレグロ、 2分の2拍子 1分  
 第19番 変ホ長調 ヴィヴァーチェ、 4分の3拍子 1分20秒  
 第20番 ハ短調 ラルゴ、 4分の4拍子 1分40秒  
 第21番 変ロ長調 カンタービレ、 4分の3拍子 1分40秒  
 第22番 ト短調 モルト・アジタート、 8分の6拍子 50秒  
 第23番 へ長調 モデラート、 4分の4拍子 50秒  
 第24番 ニ短調 アレグロ・アパッシオナート 8分の6拍子 2分30秒  
 この曲にも超絶技巧が要求されます。

全曲の演奏時間 約40分

=休憩=

● 1 2 の練習曲 Op. 25

1 8 3 7 年に発表された作品で以下の 1 2 曲からなります。

「 」内はショパンが付けたタイトルではなく、後世の愛称です。

第 1 番 変イ長調 アレグロ・ソステヌート 4 分の 4 拍子 3 分 「エオリアンハープ」  
愛称はこの曲を聞いたシューマンが「まるでエオリアンハープ（古代ギリシャの風力を利用した楽器）を聞いているようだ」と言ったといわれていることから由来します。

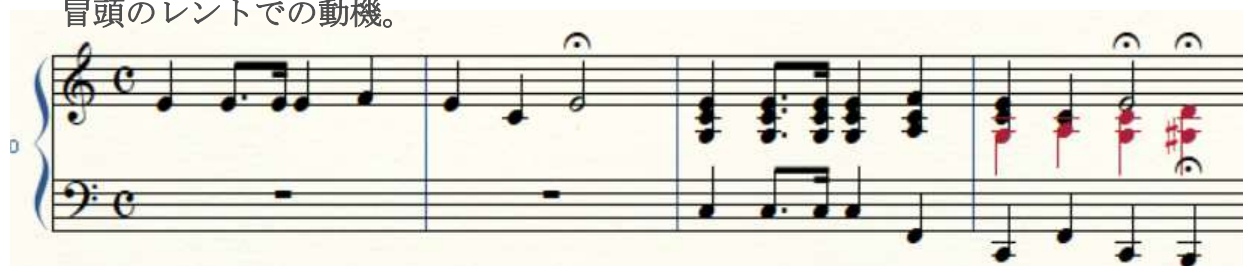


第 2 番	ヘ短調	プレスト	2 分の 2 拍子	1 分 4 0 秒
第 3 番	ヘ長調	アレグロ	4 分の 3 拍子	2 分
第 4 番	イ短調	アジタート	2 分の 2 拍子	1 分 5 0 秒
第 5 番	ホ短調	ヴィヴァーチェ	4 分の 3 拍子	4 分
第 6 番	嬰ト短調	アレグロ	2 分の 2 拍子	2 分 3 0 秒
第 7 番	嬰ハ短調	レント	4 分の 3 拍子	5 分 3 0 秒
第 8 番	変ニ長調	ヴィヴァーチェ	2 分の 2 拍子	1 分 2 0 秒
第 9 番	変ト長調	アッサイ・アレグロ	4 分の 2 拍子	1 分 1 0 秒 「蝶々」

愛称は、右手の軽やかな進行が、ひらひらと舞う可憐な蝶を連想させることから。

第 1 0 番 ロ短調 2 分の 2 拍子—ロ長調 4 分の 3 拍子 4 分 3 0 秒

第 1 1 番 イ短調 レント—アレグロ・コン・ブリオ 4 分の 4 拍子 4 分 「木枯らし」  
冒頭のレントでの動機。



アレグロではこの動機が左手で繰り返され、右手は速くて細かいパッセージを弾きます。  
これが冬の木枯らしに乱舞する落ち葉のようすを連想させることから愛称が付けました。

第 1 2 番 ハ短調 モルト・アレグロ・コン・ヒュオコ 2 分の 2 拍子 3 分 「大洋」  
愛称は、音の大波が大洋の大きなうねりが上下に動揺している様子を連想させることから。

全曲の演奏時間 約 3 5 分